日刊 動労千葉
86. 10. 29
No. 2393
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

許すな！人活センターの仲間を見殺しの"署名運動"

<国労内右翼部分の敗北・分裂>

奴隷の道―「労使共同宣言」結べば雇用と組織が守れるか

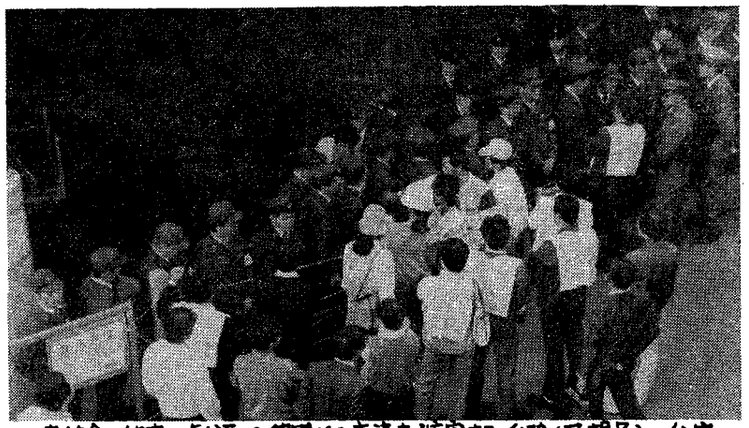
十月十三日、国鉄分割・民営化絶対反対千葉連絡会（代表・中江昌夫船橋市議）が幕張電車区『船橋人材活用センター』において、「国鉄労働者の基本的人権を侵害する人材活用センターを直ちに廃止せよ」との申し入れを行った。動労千葉は、「人材活用センター」への強制配転をうけ、理不尽きわまりない差別・選別に歯を食いしばり、闘いぬいている仲間たちを絶対に守りぬいていかなければならない。

国労右派が「自分だけ延命」せんと〝署名運動〟

いま、国労内「共同宣言」派の札幌・静岡・広島地本などをはじめとした一部「青友会」・右派幹部が動労革マル・松崎や鉄労に追随して自分たちだけ「生き残る」ために仲間を敵に売りとばそうと「社会党・総評を支持する国労全国連絡協議体」なるものをデッチ上げて、「多数派形成をめざし〝労使共同宣言〟署名運動」をうちだした。国労の分裂・解体を策動する裏切りにうって出てきている。千葉においても「署名運動」がコッソリやられようとしている。

労使共同宣言を結べば「雇用と組織を守れる」どころか、国労はズタズタに破壊され、動労革マルと鉄労に蹂りんされてしまう。「人活センター」の仲間を見殺しにしてどうして「雇用と組織を守る」ことになるのだ。

「六一・一一ダイ改」阻止、「人材活用センター」粉砕、広域配転阻止へ、実力反撃に起とう。



連絡会の仲間と「人活」の仲間との交流を妨害する白腕（局課員）と公安

人活センター粉砕！「元の職場に直ちに返せ！」怒りのシュプレヒコール

10/14 毎日「人活センターは労働者差別」

幕張電車区 30人が押しかけ抗議

国鉄が余剰人員対策として七月から全国的に設置した人材活用センターは、労働者を差別し、職場から追放するためのもので、不当労働行為であり、人権侵害にあたる、として十三日、「国鉄分割・民営化反対千葉連絡会＝代表・中江昌夫船橋市議」の人たちが、国鉄船橋駅近くの幕張電車区船橋人活センターに押しかけ、抗議した。

抗議には千葉動労や国労千葉地本の人たちを中心に約三十人が参加、「何ら設置目的を見いだせない人活センターの廃止」などを訴え、シュプレヒコールをあげ、抗議文を手渡した。

同連絡会の話では、人活センターは、各電車区、運転区などに設置されているが、幕張電車区と佐倉機関区のセンターは、組合活動家ばかり十六人を配属し、本来の職場から切り離して、ロッカーの修理や便所掃除をさせるなど、不当労働行為を行っている、と言っている。

同連絡会は十七日午後六時から千葉市民会館で「10・17分割・民営化に異議あり！国鉄労働者に連帯する千葉県集会」を開くなど抗議行動を強める方針。

船橋 人活ニュース
No 6
1986.10.15
発行 「船橋人活ニュース」編集委員会
TEL（047）459-2067

10/13 人活告発の闘い

駅前をこだまする

十月十三日、千葉連絡会の仲間が人活センターを激励に来てくれた。ありがとう。この日当局は、局管理者十四名を午前中に配置し、午後からは七十名も動員し、激励行動を弾圧しようとした。

八時五十分過ぎ、センター助役が業務指示をし、さらに幕張区長が「机の清掃」の業務命令書を一人ひとりに手渡した。

連絡会の仲間との交流を阻止しようという姑息な手段である。十一時すぎにはセンターの出入り口すべてにロープを厳重に張り、課員が幾重にも立っている。まさに収用所といった風景である。

十四時すぎ、中江船橋市議を先頭にゼッケン、ハチまきの姿で支援部隊五十名が到着した。

直ちにセンターの実態視察と激励の申し入れを千葉連絡会は行った。ところが当局は一切話合いに応じないのだ。

この姿勢こそ当局の不正義性を示すものだ。立ちはだかる白腕章の一人ひとりに連絡会の仲間が抗議をすると全員が死んだような目をして貝のように口を閉じたままだ。「分割・民営化」が正しくないことをこいつらは百も承知なのだ。

ただ、流れには逆らえないとか、人活に自分は行きたくない、ということなのだ。

「みなさん！　これが人活センターです」「人活センター粉砕！」「元の職場に直ちに返せ！」と怒りのシュプレヒコールが船橋駅前を延々一時間もこだました。通りを歩く市民が「なんだ、なんだ」と集ってくる。

この日の告発の闘いは大勝利であった。

我々は、激励に来てくれた仲間の声援を裏切ることなく今後も闘いぬくぞ！